

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076200296		
法人名	医療法人 雅紀会		
事業所名	グループホームさくら	A棟	
所在地	福岡県飯塚市秋松709-11		
自己評価作成日	平成25年6月30日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリクス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成25年7月18日	評価結果確定日	平成25年8月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>落ち着いた雰囲気の中で、入居者と職員が穏やかに入居生活が継続できる様に行動や言動に配慮しながら、日々の暮らしを支援している</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームさくらは、同法人の高齢者住宅や関連法人施設・事業所が集積する中に位置し、日常的な連携や交流をサービスの向上に活かしている。和を基調とする重厚な佇まいと、ゆとりある生活空間が確保され、中庭や周辺の川辺では、気軽に季節感を感じることができる環境である。昨年発足した飯塚市地域密着型サービス連絡協議会では役員を務め、行政や他事業所との連携を図っている。管理者、職員は、重度化へと移行している現状の中で、一日一日を大切にしたり寄り添う支援を念頭に置き、心身の活性化に向けた機能訓練等に取り組んでいる。また、家族との連携を活かし、自宅で梅を収穫したり、友人との食事や入院のお見舞い等、関係性の継続に向けた働きかけも行なわれている。入居者の方々の表情の豊かさや意思の表出の場面から、個人を尊重した日常の関わりがうかがえる。今後も、個別支援の追求や地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・終礼・ミーティング等で話し合いの場を設けると共に毎朝の唱和にて理念の共有化に繋げている	事業所独自の「理念と方針」は、「心身の痛みの緩和」と「心の癒し」を支援の柱とし、入居者の方々の力を活かしながら個別の暮らしを支援していくというもので、ミーティングや新人研修を通じて共有を図っている。現在、職員の意見を集約し、理念の見直しが検討されている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の草取りや花壇整備・ペットボトルキャップの回収等を利用者と共に行ったり、学生等の実習・ボランティアの受け入れを行っている	日常的に、隣接する高齢者住宅や関連施設との交流や連携が図られている。近隣の大型ショッピングモールのリサイクル活動に協力し、感謝状も頂いている。地域の商店から毎日食材が届き、顔なじみの関係となっており、散歩の途中に近隣住民との自然体での交流の場面もある。看護学校の実習生や中学校の職場体験を受け入れている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生・職場体験等のボランティアの受け入れや見学等にて入居者の理解に繋げている	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議に議題として提供し、各々の意見を伺いサービスの向上に繋げている	運営推進会議は、入居者、家族、福祉委員、飯塚市職員の参加を得て、2か月に1回、定期開催されている。情報共有や意見交換を行い、サービスの向上に結び付けるよう取り組んでいる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからない事は市町村に尋ねる事で連携を図っている	昨年発足した飯塚市地域密着型サービス連絡協議会では役員を務め、運営や研修等にて、市担当者との連携を図っている。日頃から、市の担当者とは、顔の見える関係の中で、不明な点等の問い合わせや情報共有を図っている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠を行わない等を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については年間研修計画の中に位置付け、理解を深めながら、職員の共有認識を図るよう取り組んでいる。入居時に、日常の暮らしの中で想定されるリスクを説明し、家族との共有認識を図りながら、安全面の配慮に努めている。日中は玄関や門扉も施錠せず、個別の距離感を意識しながら、見守りを行っている。

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修にて理解を深めると共に言葉使いに留意している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方もおり、研修でも学ぶ機会を設けている	玄関ホールには、権利擁護制度に関する資料を用意し、常に閲覧可能としている。現在、制度を活用されている方もおり、関係者との連携を図り、支援を行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居申し込み書の記入時・契約書のサインを頂く時や変更等があれば、その都度説明し理解・納得を得ている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に説明を行い、苦情箱の設置及び家族会や毎月の支払い時の声かけや介護相談員へ尋ねている	毎月、飯塚市の派遣する介護相談員を受け入れている。また、ホーム行事への参加を募り、その後家族会を開催している。出された意見や要望に対する取り組み報告や回答も行われており、運営に反映させている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス担当者会議やミーティングの場を活用し、職員の採用や入居者の決定に職員の意見が取り入れられている	毎月の定例ミーティングでは、職員に積極的な発言を促している。職員より、理念の見直しに向けた意見もあり、再構築に向けた検討が行われている。若い職員も増え、風通しの良い環境作りに向けて努力している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の管理者との運営会議の中で報告・通達にて情報を共有しながら、職場環境改善に繋げたり、研修への参加励行を行っている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女各年代の方々が勤務されており、採用に関して特に制限は設けていない。各々の能力を発揮して頂いている	職員の採用にあたり、年齢や性別による排除は行われていない。常勤採用を基本とし、就業時間を明確にする等、働きやすい環境づくりに積極的に取り組んでいる。内部研修では、担当者を決め、各職員の主体的な関わりを求めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に関する研修会を開催し、人権教育・啓発活動に努めている	内外の研修機会を確保し、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。職員のストレスケアにも留意している。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画の作成及び外部研修への励行を行うと共に内部研修にて情報の共有に繋げている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会への入会や近隣事業所との関わりを持つ機会を頂き、勉強会や活動を通じてサービスの向上に繋げている		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々人の置かれている環境を考慮しながら訴えを傾聴している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談があれば状況に応じて話し合いを行い入居の可否を決めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議にて色々なサービスも視野に入れた話し合いを行い納得されたサービスの提供に努めている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々人に合った援助方法を見つけ支援を行っているが、入居者の方々の知恵も活用している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会・毎月行事への参加・見学等を便りに掲載し、参加を促している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に協力を求めて外出・外泊の励行をお願いしている	家族の宿泊に対応している。家族との連携により、自宅で梅を収穫したり、友人との昼食、入院している方のお見舞い、行きつけの美容室の利用等、関係性の継続に向けた働きかけが行われている。	

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	趣味や話が合いそうな方・顔見知りの方々が同席出来る様に配慮を行っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の見舞い等状況に合わせて支援を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々人の意向を尊重しながら入居して頂いているが、困難な場合は繰り返し話し合いを行っている	入浴時等、入居者と一対一になる場面を大切に捉え、思いや意向の把握に努めている。記録に追われる介護ではなく、ふれあう時間を大切にしている。家族とも情報共有を図りながら、本人本位の支援に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の相談時に本人及び家族・ケアマネ棟からの情報収集や現状の把握を行うが、入居後も継続して状態把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや状態観察にて個々人の状態把握に繋げている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を確認して、ケアチェック表・サービス担当者会議を踏まえ、計画を立案している	定期的なアセスメントやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性を検討している。担当者会議には、必要に応じて主治医の参加も確認できる。センター方式に関する外部研修に参加している。	認知症ケアや個別ケアへのアプローチへと結びつける観察視点の確保、また、情報共有への取り組みとして、アセスメント情報の充実が期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別カルテに記入すると共に、急変時や重要事項は申し送りノートを活用し情報の共有に努めている		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の意向はその都度職員間で協議し、プランへの反映を行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや訪問介護指導員等からの助言や指導を受けて楽しく暮らして頂けるように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望によるかかりつけ医への受診・又は往診を支援している。かかりつけ医・協力機関・職員との連携により、スムーズな医療が受けられるように支援を行っている	入居時に、かかりつけ医について意向を確認している。家族との連携を図りながら、受診や往診の体制を整備している。看護職員の配置や、介護職員の気づきを共有しながら、早期対応や適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護・介護職は連携を図り、異常の早期発見・病院受診に繋げている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的な見舞いを行い、状況把握に努め主治医からの状況説明にも積極的に参加している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における指針を示し、家族に同意を得ている。又、状況に合わせて本人や家族の意向を検討し職員・医療従事者間で方針を共有している	入居時に、重度化した場合における対応に係わる指針をもとに説明を行い、意向確認及び同意を得ている。状況の変化に伴い、家族や医療関係者を交え話し合いを重ね、方針を共有している。これまでに看取りを経験しており、今後も個別の意向やニーズ、状況を関係者で共有、検討を行いながら、支援を行っていく方針である。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成及び内部研修にて実施訓練を行っている		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施及び近隣施設との連携により協力体制を行っている	防災業者との連携を図り、昼夜を想定した消火、通報、避難訓練を実施している。入居者全員が参加し、また、近隣に民家が少ないことから、隣接する関連施設との連携を確認している。防災センターでの地震体験等、外部研修にも参加している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別記録等はかぎ付きの書庫に保管し、接遇についての研修を通じて、入居者への対応にも配慮を行っている	伝わる言葉として方言を交えながらコミュニケーションを深め、研修やミーティングを通じて、意識の向上や振り返る機会を持っている。排泄ケアや入浴時の対応には特に留意し、誇りやプライバシーへの配慮に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを図り、本人の意向を尋ね自己意思決定に繋げている。意向に添えない時は説明を行い納得を得ている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日程は有るものの、個々人の状態や意向に合わせて、支援を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容室を希望時に利用して頂いたり、ショッピング等にて希望商品の購入して頂いている		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食事形態に本人・家族の意向を取り入れている。個々人の状況に合わせて、盛り付けや片づけ等を一緒に行っている	母体法人の管理栄養士により、嗜好や要望に対応された献立が作成されている。各ユニットで調理され、調理の様子がリビングにも伝わってくる。中庭での食事会や、弁当を作りバスハイクに出かけたり、たこ焼きやケーキ作りを行なう等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会を持っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の作成する献立を使用すると共に必要時、経口栄養補助食品も使用している		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは個々人に合わせて歯磨きの声かけや義歯の洗浄支援を行っている。必要時歯科受診も行っている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレへの声かけや状況や表情等にて適宜声かけを行い排泄支援に繋げている	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。日中は基本的にトイレでの排泄を支援し、夜間は個別の状況を検討し、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し排便状態を把握し、食材の工夫や適度な運動・腹部マッサージ及び水分補給を促したり、必要時主治医に報告指示を仰いでいる		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	バイタル測定や状態観察。本人の意向を尋ねながら入浴を勧めている	毎日入浴準備を行い、無理強いとならないよう、希望や状況に柔軟に対応している。週3回程度の基本的なスケジュールは設定しているが、毎日の入浴にも対応している。季節の柚子湯や入浴剤の使用等、ゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動の時間を設けてはいるが、個々人の状態に合わせて適宜休息を取り入れている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋やカルテ記録等にて目的や副作用を把握した上で服薬支援を行っている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々人の好きな事や得意な事を把握し、日常生活の中で発揮できるように支援に繋げている		

福岡県 グループホーム さくら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態や天候・気候にもよるが、散歩・ドライブ・ショッピングへの声かけを行っている	重度化へと移行する中で、外出の希望も少なくなっているが、近隣の大型ショッピングモールでは花壇の整備に関わり、買い物にも出かけている。希望や季候、体調等に応じて、周辺の土手や広い敷地内の散策を支援している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・家族の意向を踏まえ、買い物の際に個人々に合った支援を行ったり、買い物代行も行っている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される場合は、家族の理解の上で支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きなテーブルやソファを設置し、自由に過ごす事が出来、台所から調理の匂いがしたり、吐き出しの窓からは日差しが差し込んだりして明るく開放的な空間を作っている。	天井の高いリビングはゆとりある広さが確保されており、開口部も大きく設けられ、明るく開放的な空間となっている。掃き出しの窓には、箒箆が立てられ、夏場の日差しを調節している。ソファや和室スペース等、くつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテレビやソファを設置したり畳のスペースもあり、自由に過ごさせており、中庭にはベンチも設置している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた、(家具や寝具)を持ち込まれたり、個人々の居室を飾られている	各居室には、トイレや洗面台が設備されている。掃き出しの窓は採光もよく、圧迫感を感じない作りとなっている。車椅子使用の動線にも配慮しながら、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共同の場所への表示を掲示しホール内はカーペット・居室・廊下はクッション性のあるフローリングを使用。手すりも設置。		